

知れば知るほど、興味が広がる。「知の巨人」の多彩な魅力。

館内では、清張の魅力パネルやオリジナル映像、自宅の再現展示など、幅広い視点から紹介しています。



生涯の年譜

清張の生涯とその生きた時代を全長22mの巨大な年譜で解説しています。



読書室

清張の作品や関係資料が無料で閲覧できます。

主人公に重ねた 清張の姿を読む

松本清張
「或る『小倉日記』伝 傑作短編集【一】」
新潮文庫刊



1953年(昭和28年)の芥川賞に輝き、清張の名を全国に知らしめた出世作です。物語の舞台は、戦前から戦後にかけての小倉。明治の文豪・森鷗外が軍医として小倉に生きた3年間の空白を調べることに生涯をかけた主人公の人生や、彼を生涯支えた母の愛の深さを描いた短編小説です。興味深いのは、主人公に清張自身の前半生が投影されている点。作品はフィクションですが、実は清張自身のエピソードも随所に盛り込まれています。行間から、不遇な中でも地道に努力を重ねた、小倉時代の清張の姿を読み取ることも可能でしょう。魚町、鍛冶町、三岳と、作中には皆



さんにはおなじみの地名も登場します。「清張初心者」にもおすすめの1冊です。

学芸員
柳原暁子さん

「茶の間に語りかける 歴史書」として書かれた本

松本清張
「邪馬台国 清張通史(1)」
講談社文庫刊



ひみこ
女王卑弥呼が治めた国とされる邪馬台国の謎に迫った作品。「学問は国民みんなのもの」と考えた清張らしく、親しみやすい日本歴史書に仕上がっています。発表は1970年代半ば。当時盛んだった「邪馬台国はどこにあったのか」とされる論争に、長年の研究成果をもとに独自の視点から一石を投げ、一般の読者はもちろん、歴史学者にも高く評価されました。ミステリー作家としての顔以外にも多彩な側面を持つ清張の「古代史研究」領域の最初の1冊として、お薦めしたい作品です。この本は今なお増刷を重ね、読み継がれています。清張が目指したとおり、多くの国民の

支持を得て、「茶の間に語りかける」作品となった証しとも言えるでしょう。



学芸担当主任
中川里志さん



書斎の再現展示

清張が作品を執筆した書斎を忠実に再現。



SEICHO Café

館内探訪の合間に、
カフェで一息。
ランチタイムの
人気メニューは
アジフライカレー。



ミュージアムショップ

記念館刊行物や書籍のほか、ポストカードやTシャツなどのオリジナルグッズも販売。



自宅の再現展示

清張が昭和30年代から作家活動を行った東京の自宅を再現。

市制60周年記念 松本清張記念館開館25周年記念事業

①ミニ企画展「松本清張が君たちに伝えたかった徳川家康」

松本清張が少年少女に向けて書いた伝記「徳川家康」を紹介し、清張が子どもたちに伝えたかったことは何かを考えます。7月20日(木)～11月5日(日)、松本清張記念館で。料入館料が必要。

②講演会

講師は直木賞作家・佐藤究さん。テーマは「小説の価値と世界の黒い霧」。8月6日(日)15時～16時30分、J:COM北九州芸術劇場(リバーウォーク北九州6階)で。定180人。



©kiyoshi mori

③特別企画展「清張福岡紀行」

松本清張は、芥川賞を受賞した「或る『小倉日記』伝」や、晩年の「両像・森鷗外」など多くの作品の中で福岡県の風景を記しています。これらの風景をたどりながら、作品の背景などを紹介します。9月30日(土)～12月17日(日)、松本清張記念館で。料入館料が必要。

共通②は甲が必要。往復はがき(4人まで)に基本事項と講師への質問(任意)を書いて7月17日までに松本清張記念館(〒803-0813 小倉北区城内2-3、☎582・2761)へ。ネットも可。

友の会募集のご案内

松本清張の作品の知識や理解を深めるために設立された「友の会」では、講演会の開催や会報の発行などを行っており、随時、会員を募集しています。甲など詳細は問を。

特典

常設展・企画展への招待、広報誌の送付、オリジナルグッズの進呈(加入年度のみ)など

年会費

- 一般会員：3000円
- 賛助会員：一口1万円から

この特集に関するお問い合わせ 松本清張記念館 ☎582・2761